

入野小学校 校長室だより

2016. 3. 11(金) No. 41 文責：芝

当たり前のような毎日でも

今日は「3.11」東日本大震災から5年目。ここ数日、被災された方のことがマスコミに取り上げられています、どの話も気の毒でなりません。突然家族を失った方の気持ちは想像するだけで胸が痛くなりますし、生活に必要なもの全てを失った方の苦労は、私の想像を超えていると思います。幸せな時間は、何気ない毎日の中にあるのですね。

私たちに何が出来るでしょうか。

今日、6年生は学級レクとして香山寺に行きました。下の写真は出発前に集まった6年生です。その様子を『この子たちが登校してくるのは、あと十日もないのか…』と、少々感傷的になって眺めていたとき、頭に浮かんでいたのが右で紹介した「おそすぎないうちに」の歌です。当たり前のように一緒に過ごしてきた仲間なのに、進学先は数校に分かれますから、こんなにみんなが同じ時間と空間を共有することは難しくなります。当たり前だったことが、本当はとても貴重なことだったと、いつか気付く時があるのだろうと、自分自身の経験をもとに思ったことでした。



おそすぎないうちに

作詞作曲 中山真理

なくしてしまってから その大切さに気付いて
くやんだり かなしんだりしても おそすぎるよ
もしかしたら いちばん この世で大切なものは
ふだん あまりに 身近すぎて
気にも 留めていないかも
今ある 全てのものは 当たり前なんかじゃなく
今ある 全てのものが 奇跡的にあるとしたら
きみは どうやって それを 守るだろう
おそすぎないうちに 間に合う今のうちに
できるかぎりのことをしよう
生まれてこられたお礼に

(2番省略)



先日、全校で大掃除をしたあと、5年生と6年生にワックスをかけてもらいました。あっさり書くと短いのですが、作業全体を紹介すると「教室の中のもの全部廊下へ出す→拭き掃除→乾いてからワックスかけ」、教室のワックスが乾くと「廊下の荷物を教室に戻す→廊下の拭き掃除→乾いてからワックスかけ」と大・大仕事。なので、これまでは全部出来ない場合も多かったようです。ですが、今回は完璧に終了！本当に快挙です。天候に恵まれて乾きが早かったことありますが、5年生6年生の活躍がなければ、あんなに見事には終わりません。

頼もしい5年生と6年生です。